

『DOBOT AudiR8LMS』  
Yoshiaki Katayama  
Roberto Merhi Muntan



大会概要

2023年 SUPER GTシリーズ 第1戦

大会名称

2023 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE

開催日時

4月15日 土曜（予選） 4月16日 日曜（決勝）

開催サーキット

岡山国際サーキット（1周：3.703km）

所在地：岡山県美作市滝宮1210

同時開催レース

Porsche Carrera Cup Japan 2023 第1戦・第2戦

主催

株式会社 岡山国際サーキット

アイダクラブ（AC）

株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟（FIA）

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

岡山県／美作市／岡山県観光連盟／美作国観光連盟／岡山県経済団体連絡協議会／一般社団法人岡山県商工会議所連合会／岡山県経営者協会／一般社団法人岡山経済同友会／岡山県中小企業団体中央会／岡山県商工会連合会／山陽新聞社



## ◆ 参戦体制

## ■ ドライバー



片山 義章  
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日  
出身地 愛知県  
身長 168cm  
体重 69.3kg  
血液型 RH+O



ロベルト メルヒ ムンタン  
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日  
出身地 スペイン  
身長 178cm  
体重 70kg  
血液型 RH+O



神 晴也  
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日 (満22歳)  
出身地 大阪府  
身長 175cm  
体重 70kg  
血液型 Rh+ B

## ■ 監督

太田 雅文  
Masabumi Ota

## ■ スタッフ

チーフエンジニア  
クルーチーフ  
チーフメカニック

Mattia Oselladore

小倉 啓悟  
片岡 恵人

## ■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社  
ザーレン・コーポレーション株式会社  
TONE株式会社  
高新自動車学校  
ニチアス株式会社  
エバー株式会社  
コスモ開発株式会社  
株式会社安藤・間  
岡田金属株式会社  
株式会社ジョイフル設備  
カトー機械株式会社  
株式会社デジテックエイチピー  
株式会社マイティミズタニ  
MIDTOWN BBQ  
ウエスタンデジタルジャパン株式会社  
青山エレベーター株式会社

エルアイピーリゾート株式会社  
城東電機株式会社  
ブランデュース株式会社  
株式会社リブレ  
見田工作株式会社  
株式会社PACIFIC RACING TEAM  
朝日金属株式会社  
有限会社大和工業  
有限会社ます徳  
アクセル有限会社  
ORIC  
SPIN OFF

## ◆ 予 選

天候 雨

コース状況 ウエット

気温 13℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 14℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時00分 (GT300クラスQ1-A組開始)



Team LeMansは、昨年に引き続き、SUPER GT300クラスにAudi R8 LMSで参戦する。3年目となる今シーズンは、昨年同様、第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムンタンを起用するとともに、第3ドライバーとして新たに神 晴也が加わった。また、マティア・オセラドーレをチーフエンジニアに迎え、「DOBOT AudiR8LMS」とともに新たな体制で2023シーズンを戦う。タイヤは、昨シーズン同様、ヨコハマタイヤを装着する。

GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。岡山国際サーキットで行われる開幕戦には27台が参加し、#6 DOBOT Audi R8 LMSはA組でQ1に挑んだ。

**#6 DOBOT Audi R8 LMS****予選結果：20位 (予選Q1ベストタイム：1分47秒036/片山選手)**

予選日の15日は朝から雨に見舞われた影響で、Q1、Q2はともに予定より5分延長の15分間で行われた。さっそく14時ちょうどからGT300クラスのQ1-Aがスタート。降りしきる雨のなか、Q1を担当する片山は4周目に1分47秒036をマークし、さらに次の周も自己ベストを更新するペースでタイムアタックを続けていたが、片山が最終コーナーを走行したところで雨脚が強まり、終了まで5分25秒というところでセッションは赤旗中断となってしまう。その後、予選は再開されず、片山は自己ベストを更新できず、惜しくも10位でQ2進出を逃した。

## ◆ 決 勝

天候 くもり/雨

コース状況 ドライ/ウエット

気温 19℃ (スタート時)

路面温度 30℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時30分

レース予定周回数 82周 (約300km)

#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&amp;メルヒ選手)

決勝結果：21位 (所要時間：2時間47分36秒164=51周消化/ベストラップ：1分27秒662=片山選手)



決勝日の16日は午前中こそ好天に恵まれたものの、決勝スタートの13時30分につれて岡山国際サーキットには雨雲が迫り、フォーメーションラップの開始とともに小雨が降り出した。予想ができない空模様のもと、片山のドライブで決勝レースは戦いの火蓋が切られた。片山はオープニングラップで3つ順位を上げて17位につけ、その後もオーバーテイクを続けて、13周終了時には12位までポジションをアップするなど、順調な滑り出しを見せた。

レース開始から10分が経過したあたりで雨が強まり、ほどなくして雨は本降りに。14周を終えたところでライバルの一部がピットインしてタイヤをスリックからウェットに交換し、チームも片山にピットインの指示を出した。ところがその週の1コーナーで片山がコースアウトし、不運にもグラベルにつかまってしまう。その移動のため、レースはFCYが導入され、さらにコースサイドで停止した他のGT300マシンを撤去するためにセーフティカーが導入される。

コースオフィシャルの作業によりコースに復帰した片山は、そのままピットに戻りマシンをチェック。さいわいマシンは走行を続けられる状態だったが、復帰した時点でトップとは2周差、ポジションを25位まで落としていた。それでも、片山とロベルトは、ひとつでもポジションを上げようと、上位に引けを取らないペースでホームサーキットでの周回を続けた。

しかし、その後もコース脇でストップする車両により、相次いでFCYとセーフティカーが導入され、さらに雷雨の影響も加わり15時15分には赤旗でレースは中断。セッション再開後もセーフティカーランと赤旗中断を繰り返し、最終的にはセーフティカーラン中の16時24分に赤旗が提示され、そのままレースは終了。38周を終えたところで交替したロベルトは、後半の18周を走りきり、トップから3周遅れの21位で完走を果たした。

岡山での事前テストや公式練習などで上位入賞の手応えを感じていただけに、悪天候に翻弄された開幕戦は悔いが残る結果となったが、今回のレースでの課題を洗い出し、次戦の富士では上位入賞を目指す。

## 片山 義章 選手のコメント

開幕前の公式テストや予選直前の練習走行では、マシン、ドライバーともに調子が良く、表彰台を獲得する自信がありました。そして臨んだQ1は、フルウェットのコンディションではありましたが、走りはじめはまだ雨も小降り、タイヤを温めながらプッシュしていました。その間に雨はどんどん強くなり、ようやくタイヤが温まった5周目はセクターごとに自己ベストを更新。しかし、ホームストレートに戻り、コントロールラインを通過する直前に、大雨のため予選が赤旗終了になってしまいました。あとわずか5秒あればタイムを更新してQ2に進出できたはずが、無念にもノックアウトとなってしまったのです。

予選の無念を晴らすべく、決勝ではスタートから猛プッシュしました。実際、8台を抜き順調に順位を上げていったのですが、突然の大雨でスピンを喫してしまいました。チームとの無線連絡が上手くいかず、ピットに入るタイミングを逃してしまったのが大きな原因でした。今回は優勝するポテンシャルがあったにもかかわらず、下位に沈んでしまい、本当に悔しい。僕もチームも今回の失敗から学び、次戦はしっかりと結果を残しますので、引き続きTeam LeMansの応援をよろしくお願いします。



## ロベルト・メリ・ムンタン選手のコメント

岡山国際サーキットで行った3月の公式テストでは、チーム力に大きな進化が感じられ、ヨシ（片山）も私も好成績を残すことでできました。それだけに、ホームコースでの開幕戦には自信を持って臨んだわけですが、残念ながら消化不良に終わってしまいました。

ヨシが挑んだQ1では自己ベスト更新中のラップで赤旗が出されて、Q2進出を逃してしまったり、日曜日決勝レースでも理解できないタイミングで出された赤旗により、われわれが追い上げるチャンスを失ってしまったのです。

土曜日午前の公式練習では、あいにくのウェットコンディションでもマシンの高い戦闘力に手応えを感じただけに、いまは悔しい気持ちで一杯です。



## チームコメント

事前のテストでは上位につけることができ、その流れのまま、上位入賞を狙って岡山に入りました。しかし、悪天候の影響で予選から歯車が狂いだし、決勝でも思うような戦いができず、チームとして足りない部分や課題がたくさん見つかるレースとなりました。

次の富士も事前のテストで良い感触を掴めているので、予選、決勝ともに納得のいく戦いができるようチーム全員でしっかりと準備をしていきたいと思えます。応援してくださる皆さんにも良い結果を早く届けられるよう頑張ります。



